

プロのイチオシ温泉 Vol.6

塩原温泉郷

めしあがれ、ア・ラ・カルトで「源泉遺産」

後藤 康彰

日本健康開発財団 温泉医科学研究所主席研究員

【ごとう やすあき】加齢を制御する生活行動として「日本の入浴・温泉」に着目。「温泉地滞在が心身に与える影響」等の研究を実施している。温泉と食べることに目がなく、年間50箇所ほどの湯をめぐる。



塩原温泉街を望む

温泉好き…といっても湯ざわり、湯の色、湯の香り、湯の温度の好みは千差万別。ファンになるほどこだわりが出てくるのはオタクの世界…いや趣味人の世界の常ですよね。家族や友人同士でもなかなか目的地の意見が合わないことも…。そんな悩みに直面した際に思い出していただきたいのが、今回ご紹介する「塩原温泉郷」です。

栃木県北西部から東へと流れる^{ほうきがわ}箒川流域。那須野が原を下流から溯る溪谷沿いに大網^{ふくわた}、福渡、塩釜、塩の湯、畑下^{はたおり}、門前、古町、中塩原、上塩原、元湯、新湯の「十一湯」で形成され、開湯は西暦806年の「塩原温泉郷」。源泉数は約150を誇って関東屈指。最大の特徴は、コンパクトなエリアにあって多彩な泉質の源泉を誇ることです。

6泉質・7色の「源泉遺産」を逆引きで楽しむ贅沢

療養泉で定義されている10の泉質のうち塩原温泉郷にあるのは6つ。塩化物泉、炭酸水素塩泉、硫酸塩泉、硫黄泉、酸性泉、単純温泉。肌の保湿作用があるとされるメタけい酸を多く含んだ温泉もみられます。また色合いは乳白色、茶褐色、黒色、黄金色、緑白色、薄墨色、透明の7色ですから、いろんな温泉を楽しみながら、仲間との温泉談義に花を咲かせることもできるでしょう。

公式ウェブサイト (<http://www.siobara.or.jp/>) では、泉質・色ごとの特徴紹介にあわせて、該当する宿泊施設のリストも掲載されていますので、「目的から逆引きして」温泉を探すこともできますよ。刺激の少ない単純温泉からはじめて、強めの硫黄泉、最後に塩化物泉でメ、なんてア・ラ・カルトなコース仕立てを、オリジナルで作ってみるのも楽しいでしょう。こちらのウェブサイト、各旅館

の女将さんやご主人、観光協会の皆さんも出演していて、気軽に声をかけても喜んでいただけますよ。

飲みわけて楽しむ温泉もぜひ

塩原で飲泉許可のある施設は10箇所、塩化物泉、硫酸塩泉、硫黄泉の3種。塩化物泉は萎縮性胃炎や便秘、硫酸塩泉は高コレステロール血症や胆道系機能障害、硫黄泉は糖尿病や高コレステロール血症が適応となります。それぞれ味が異なりますので、飲み比べてみるのもいいでしょう。左党には焼酎やウイスキーの温泉割りも楽しみのひとつではありますが、飲酒後の入浴はくれぐれもお控えください。

